



次世代を担う人材の育成

問 英語教育の取組とその成果について

グローバル化が加速する中、国際共通語である英語教育にどのように取り組み、どのような成果が出ているか。

教育次長 各学校に配置している外国語指導助手(ALT)による触れ合いを通じた学習指導は、外国文化の理解や外国人とのコミュニケーション能力の向上に役立っています。また、英検受験料補助により小学5年生以上の児童・生徒全員が受験し、小学生においても3級合格者がいました。さらに、小学校5・6年生を対象に夏休みの1日を英語のみで過ごすイングリッシュ・キャンプを実施し、参加した児童からは

「英語は楽しい」等の感想が寄せられました。

問 教育DXの推進について世界的にAIや半導体などの先端技術を駆使した産業が中核をなしている。デジタル人材の育成が必要と考えるが、取組を伺う。

教育次長 学校ではひとり一台学習用端末やネットワーク環境の整備を行い、ゲーム感覚でプログラミングが学べる教育アプリを活用しています。また、安全・適切に情報技術が活用できるよう児童・生徒・保護者に対し情報モラル教育を行っています。

問 人材育成について国際的な資質や感覚を兼ね

備えた人材をどのように育成していくのか。

教育次長 義務教育9年間の教育目標として、知・徳・体のバランスのとれた児童・生徒の育成に取り組んでいます。今後も学校・家庭・地域が連携し、新しい時代に活躍できる人材を育成していきます。



イングリッシュ・キャンプALTの先生方

人口減少を踏まえた財政見通しと今後のまちづくり

問 令和6年度財政指標について

総務課長 財政力指数は0.79で県内で9番目に高く、経常収支比率は87%で県内2番目に低く良い比率です。積立金残高比率は78.1%で県内8番目に多い比率です。地方債現在高比率は92.4%で県内3番目に借金が少ない状況です。また、実質公債費比率は14.1%で県内で最も高い数値ですが、今後、償還額の減少により比率は下がる見通しです。

す町税は、令和6年度決算で過去最高額でした。また、基金残高も過去10年間で最高額となり、財政健全化を判断する指標は全て基準内で健全化が図られています。今後、インフラの老朽化対策には多額の資金を要するため、計画的に事業を実施していく必要があります。

問 10年20年後の町の状況(想定)について

人口減少や少子高齢化が進む中、安定した財源確保が求められるが。

総務課長 人口減少や大規模事業を想定した中期財政見通しを策定し、必要な財源対策を講じています。持続可能な財政基盤確立のため、町税

等の安定的な自主財源の確保や公共施設の集約化等、抜本的な改善が必要と考えています。

問 魅力あるまちづくりについて

10年、20年後は町も大きく変わるものと思われる。皆が「住みたくなるまちづくり」が求められるが。

まちづくり戦略課長 役場等の行政機能や商業等の生活機能を集約し、高齢者をはじめ、町民の皆様が安心して暮らせるようなコンパクトなまちづくりを進めると同時に、生活利便施設へ安易にアクセスできるよう地域公共交通網の構築を図っていきます。

問 財政健全化について

税金などの収入と支出を改善し借金を減らす活動である財政健全化の現況と課題は。

総務課長 歳入の根幹をな